

專 門 分 野 II
成 人 看 護 学

成人看護学のねらい

成人期は、青年期、壮年期、向老期と人生で最も長い期間、社会的役割を担う発達段階であり、自立・自律した意思決定できる存在である。

特徴的な疾患として悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、糖尿病などがあるが、いずれも生活習慣やストレスが関連している。また、青年期・壮年期の自殺も多く見られる。成人期は、さまざまな健康レベル上の問題を持ちながらも社会的役割を担い生活を送る人も多い。多様な生活スタイルや価値観を踏まえ、生活習慣病やがん、機能障害など健康問題をかかえながら生活する人への看護を学習する。

「成人看護学概論」

成人期の特徴や発達課題、役割、健康問題などを、法律や政策、現代の社会状況や統計と関連づけて理解する。また、多様な生活スタイルや健康観があることを踏まえ、活用できる理論を用いながら、健康支援・患者教育を提供できるようなアプローチを学ぶ。

「セルフマネジメントに向けての看護」

慢性疾患をもつ患者は、病気と折り合いをつけながら生活している。そのため、患者と話し合い、より良い生活を送っていくことが望ましい。看護としては、患者のセルフケア能力を引き出し、看護者と患者双方の信頼関係を基に問題を解決することが必要である。本科目では、健康の保持・増進に必要な知識・技術を習得し、患者自身が病状をモニタリングしながら健康状態を判断し、自己健康管理をするため患者教育の方法を学ぶ。

「健康危機状況における看護」

健康の危機状況とは、生命の危機と心理的・社会的危機に陥り、健康レベルの分岐にある状況である。生体侵襲、手術療法を受ける患者の看護を主体とし、生命の危険に対応するための異常の早期発見・合併症予防の理解が必要になる。救命救急の現場においては、緊急性と重症度を判断するための適切な観察や状態に応じた看護が求められる。本科目では、健康危機状況からの回復をめざす看護を学ぶ。

「セルフケア再獲得に向けての看護」

本来高いセルフケア能力をもつ成人に、病気や受傷により機能障害や機能低下が生じた場合、それまでのセルフケアを見直し、再獲得・再構築することが必要となる。そのとき、自己概念や役割の変化も起こる。本科目では、あらゆる健康レベルにある人が、再びその人らしく生きられるように、障害の適応および社会復帰に向けた看護を学ぶ。

「緩和ケアを必要とする人の看護」

緩和ケアとは、痛みなどの苦痛・苦悩を持つ対象および家族の生活の質を向上させる働きかけである。ここでは、患者・家族の望みを生かし、苦痛緩和とその個人がもつ力を支えるための看護を考える。また、成人が人生の終焉をむかえる時、それまでの生活の質の保持および社会的役割遂行に制限をもたらす。本科目では、全人的苦痛（身体的・精神心理的・社会的・スピリチュアルな苦痛）をかかえる患者が、人間としての尊厳を保ちながら、その人らしい生を全うできるような看護を学び、看護師になる者としての死生観を養う。

「成人の看護過程」

成人期にある対象者とその家族の、生活スタイルや価値観を踏まえ、それぞれにあわせた QOL を追求していく必要がある。そのため、成人の自立・自律性を生かし、多様な健康状態・障害に対するアセスメント力、看護展開の基礎的能力を身につけられるよう、危機状況にある人と慢性疾患によりセルフマネジメントが必要な人の 2 事例を用い、演習を取り入れた学習をする。

「成人看護学実習」

成人看護学実習は、主に入院患者を対象に看護を行う実習とし、多様な健康状態・障害に対するアセスメント力、及び実践力の育成を目指す内容とした。

実習科目は、講義と同様の 3 科目の枠組みとした。成人期の健康上の課題や特徴から、成人看護学実習Ⅰは、慢性疾患を抱える患者、何らかの障害を抱えセルフケアが必要な患者を対象に「セルフマネジメント・セルフケア再獲得に向けての看護」、成人看護学実習Ⅱは、生命の危機状況にある手術療法を受ける患者を対象に「健康危機状況にある人の看護」、成人看護学実習Ⅲは、主に終末期にある、緩和ケアを必要とする患者を対象に「緩和ケアを必要とする人の看護」を学習する。

成人看護学

【目的】

成人期にある人の健康の保持・増進、健康障害時の諸問題を総合的に把握し、看護を実践するための基礎的能力を養う。

【目標】

- 1 成人期にある人を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。
- 2 成人期にある人の健康の保持・増進と疾病予防について理解できる。
- 3 慢性疾患を持つ人のセルフマネジメントの支援について理解できる。
- 4 健康危機状況、生命の危機状況にある人の看護について理解できる。
- 5 身体機能の一部を喪失した人の機能回復、セルフケア再獲得のための看護について理解できる。
- 6 緩和ケアを必要とする人への苦痛の緩和、QOLの維持に向けた看護について理解できる。
- 7 成人期にある人の特徴を踏まえた看護問題と介入方法が理解できる。
- 8 成人の特徴を踏まえた健康問題に対する基本的なアプローチの方法や技術を習得できる。

【構成および計画】

<講義>

科 目	単位数	時間数	学年別計画時間		
			1年	2年	3年
成人看護学概論	1	30	1 (30)		
セルフマネジメントに向けての看護	1	30	1 (30)		
健康危機状況における看護	1	30		1 (30)	
セルフケア再獲得に向けての看護	1	30		1 (30)	
緩和ケアを必要とする人の看護	1	30		1 (30)	
成人の看護過程	1	30		1 (30)	
合 計	6	180	2 (60)	4 (120)	

<臨地実習>

科 目	実 習 内 容	単 位 (時 間)	時 期
成人看護学実習Ⅰ	セルフマネジメント・セルフケア再獲得に向けての看護	2 (90)	2～3年次
成人看護学実習Ⅱ	健康の危機状況にある人の看護	2 (90)	2～3年次
成人看護学実習Ⅲ	緩和ケアを必要とする人の看護	2 (90)	2～3年次
合 計		6 単位 (270 時間)	

科目 成人看護学概論 1単位 (30時間)

科目目標：成人期の特徴および健康保持や疾病予防の方法について理解する

単元名	時間数	単元目標	内 容	備 考	実務経験のある 教員による授業
成人期の特徴	8	成人期にある人の特徴を踏まえ、成人教育の原理が理解できる	1 成人のライフサイクルと発達の特徴 1) 身体の発達 2) 心理・社会的発達 2 社会状況の変化と成人の生活 1) 生活状況の変遷 2) 日常生活を取り巻く環境 3) 家族形態と機能 3 成人に対する教育的かかわり 1) アンドラゴジー 2) コンプライアンス・アドヒアランス 3) エンパワメント 4) 自己効力感		専任教員
健康生活を育む看護	10	1 成人に特有な健康問題の特徴とその予防が理解できる	1 人口の動向（平均寿命、受療率、死因別死亡率） 2 ヘルスプロモーション 3 地域保健 4 多様な健康観 5 生活習慣に関連する健康問題 1) 生活習慣病の発症因子と予防 2) 生活習慣病の発生状況 3) 生活習慣病の予防 6 職業に関連する健康障害 1) 就業条件・環境と病気 2) 職業病の発生状況 3) 労働衛生対策の基本 7 生活ストレスに関連する健康問題 1) 生活ストレスと健康問題 2) ストレス関連疾患の発生状況 3) ストレスコーピング理論 4) 適応理論		
	10	2 成人期にある患者の健康レベルの特徴に応じた理論の活用について理解できる	1 成人期にある患者・家族の健康レベルの特徴と活用する理論 1) 生命の危機状況にある患者と家族の特徴 危機理論 2) 回復期にある患者と家族の特徴 セルフケア理論、障害受容理論 3) 慢性期にある患者と家族の特徴 病みの軌跡理論 4) 終末期にある患者と家族の特徴 死の受容過程理論		
まとめ ・試験	2				

科目 セルフマネジメントに向けての看護 1単位 (30時間)

科目目標：成人期にある対象の特徴を踏まえ、健康上の課題を解決するためのセルフマネジメントの方法を理解する

単元名	時間数	単元目標	内 容	備 考	実務経験のある 教員による授業
慢性疾患 とセルフ マネジメ ント	4	慢性疾患の特徴を 踏まえセルフマネ ジメント支援につ いて理解できる	1 慢性疾患とセルフマネジメント 1) セルフマネジメントとは 2) 慢性疾患の特徴とセルフマネジメン ト 2 セルフマネジメント支援 1) 疾病認識と自己管理状況のアセス メント 2) セルフケア行動形成への影響要因 3) セルフケア行動継続への援助 (1) 内発的動機付け (自己効力感) (2) エンパワメントアプローチ (3) 自己モニタリング		専任教員
セルフマ ネジメン トを支援 する看護	6	1 呼吸機能障害を 持ちながら生活す る対象のセルフマ ネジメントについ て理解できる	1 呼吸機能障害のある対象へのセルフ マネジメント 1) 呼吸機能障害のアセスメント (1) 呼吸状態 (2) セルフケアの程度 (3) 精神に及ぼす影響 2) 急性増悪の回避と症状マネジメント (1) 禁煙 (2) 呼吸リハビリテーション (3) 感染予防 3) 社会生活継続のためのマネジメント (1) 家族支援 (2) 心理的支援 (3) 社会資源の活用	慢性閉塞 性肺疾患	
	12	2 糖代謝障害を持 ちながら生活す る対象のセルフマ ネジメントについ て理解できる	1 糖代謝障害を持つ対象へのセルフマ ネジメント 1) 糖代謝障害のアセスメント (1) 日常生活のコントロール状態の評 価 (2) 病状の変化と合併症の把握 2) 増悪因子の回避と症状マネジメント (1) 血糖コントロール (2) 感染予防 (3) 糖尿病昏睡の予防 3) セルフマネジメントの実際 (1) 食事療法 (2) 運動療法 (3) 薬物療法 (4) 低血糖時の対処	2型糖尿病	

単元名	時間数	単元目標	内 容	備 考	実務経験のある 教員による授業
	6	3 透析療法を受けながら生活する対象のセルフマネジメントについて理解できる	<p>(5) フットケア (6) 自己血糖測定 (7) インスリン自己注射 (8) シックデイとその対応 4) 社会生活継続のためのマネジメント (1) 家族支援 (2) 心理社会的支援 (性機能障害への支援を含む)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>演習〈2H〉 指導技術 ・指導案作成と教材を用いた指導の実際</p> </div> <p>1 透析療法を受ける対象へのセルフマネジメント 1) 腎機能障害のアセスメント (1) 排泄の状態 (2) セルフケアの程度 (3) 精神に及ぼす影響 2) 増悪因子の回避と症状マネジメント (1) 食事療法への援助 (2) 活動制限 3) 血液透析時の看護 (1) 導入期 (体重・食事・薬物・シャント) (2) 維持期 (自己管理状況) (3) 慢性期 (自己管理・合併症早期発見) 4) 腹膜透析時の看護 (1) 導入期 (自己管理・感染予防) (2) 維持期 (合併症の早期発見) (3) 慢性期 (自己管理状況) 5) 社会生活継続のためのマネジメント (1) 家族支援 (2) 心理的支援 (3) 社会資源の活用</p>		
まとめ ・試験	2				

科目 健康危機状況における看護 1 単位 (30 時間)

科目目標：1 生命危機状態の観察や看護判断、患者の状態に応じた看護について理解する
2 身体的侵襲を伴う治療を受ける患者の看護について理解する

単元名	時間数	単元目標	内 容	備 考	実務経験のある 教員による授業
生命の危機状態にある対象の看護	8	生命の危機状態で治療を必要としている対象の看護の特徴を理解できる	1 生命の危機状態にある対象の看護 1) クリティカルケア看護の対象 2) 生命維持と回復への援助 3) 二次障害予防 4) 家族支援 2 急性疾患により生命が脅かされている対象の看護 1) 生命の危機状態にある対象の特徴 2) 生命の危機状態にある対象のアセスメントと対応 3) 治療・処置時の看護 (1) 呼吸機能の回復 (気管内挿管、気管切開、人工呼吸器) (2) 循環機能の回復 (中心静脈圧、除細動、心臓マッサージ) (3) 苦痛・不安の緩和 (4) 代理意思決定支援 4) 循環不全のある人の看護 (1) アセスメントの視点と看護問題 (2) 検査・治療時の看護 (心電図検査、心臓カテーテル検査、経皮的冠動脈形成術)	急性心筋梗塞	看護師
侵襲的治療(手術療法)を受ける人の看護	20	1 手術療法を受ける対象の健康危機状況と看護の特徴について理解できる 2 手術前から手術後までの看護の特徴を理解できる	1 手術療法を受ける対象の看護 1) 周手術期の看護 (1) 手術侵襲と生体反応 ①生体反応の経過 ②術後合併症 (2) 麻酔による身体への影響 (3) 手術療法の過程 ①クリニカルパス (4) 周手術期におけるチーム医療と看護師の役割 (5) インフォームドコンセントと看護師の役割 (6) 精神的支援(患者・家族) (7) 内視鏡による手術の特徴と看護 ①腹腔鏡下手術 ②胸腔鏡下手術 1 手術前の看護 1) 全身状態の査定 (1) 術前検査の評価 (2) ハイリスクな既往		看護師

単元名	時間数	単元目標	内 容	備 考	実務経験のある 教員による授業
			(3) 手術に影響する薬剤 2) 術前訓練 3) 術前処置 (1) 手術前日の看護 (2) 手術当日の看護 4) 家族への支援 2 手術中の看護 1) 入室から麻酔導入時までの看護 2) 麻酔導入時の看護 (1) 全身麻酔 (2) 脊髄麻酔 3) 手術室看護師の役割 (1) 環境整備 (2) 患者の安全確保 ①手術体位 ②体温管理 ③感染予防 ④事故防止 (3) 器械出し、外回り 3 手術後の看護 1) 術直後の看護 (1) 術後の環境整備(術後ベッド作成) (2) 術直後の患者状態の把握 4 術後合併症の予防と看護 5 回復を促進する援助 1) 創傷処置(ガーゼ交換、腹帯装着) 2) 離床への援助 6 日常生活の自立に向けての援助		
		3 開腹術を受ける 対象の看護が理解 できる	1 胃切除術を受ける対象の看護 1) 胃切除時の援助 (1) 術後ドレーン管理 (2) 術後合併症予防への援助 ①ダンピング症候群 ②術後貧血 2 人工肛門造設術を受ける対象の看護 1) 術前処置 (1) ストーマサイトマーキング 2) 術後管理 (1) ストーマの合併症 (2) ドレーン管理 3) ストーマリハビリテーション 4) ボディイメージ変容への援助	創傷治癒 過程含む 胃がん 大腸がん	専任教員
		4 開胸術を受ける 人の看護が理解 できる	1 肺葉切除を受ける対象の看護 1) 胸腔ドレーン管理 2) 呼吸機能回復への援助 3) 術後合併症予防	肺がん	
まとめ ・試験	2				

科目 セルフケア再獲得に向けての看護 1単位 (30時間)

科目目標：障害をもちながら生活する成人期の対象への、セルフケアの再獲得を支援する看護を理解する

単元名	時間数	単元目標	内 容	備 考	実務経験のある 教員による授業
障害の適応と社会復帰への看護	4	障害の適応および社会復帰に向けての看護を理解できる	1 セルフケアの概念 2 機能障害のアセスメント 3 障害受容への援助 1) 障害受容への影響要因 2) 価値の転換 3) アドボカシー 4 社会参加を促す要素と阻害要因 5 チームアプローチと社会資源の活用		専任教員
セルフケアの再獲得を支援する看護	12④	1 脳・神経機能障害のある対象のセルフケア再獲得への看護を理解できる	1 脳・神経機能障害のある対象のセルフケア支援 1) 再出血、合併症のアセスメントと予防 (1) 頭蓋内圧亢進症状の緊急性と重症度・意識障害・瞳孔の異常・呼吸の異常・血圧変動・体温の変化・運動麻痺 (2) 血圧の管理 (3) 脳ドレーンの管理 2) 機能障害による日常生活動作のアセスメント 3) 二次障害予防 (1) 良肢位の保持 (2) 関節可動域訓練 (3) 筋肉維持・増強訓練 (4) 座位訓練 (5) 歩行訓練 (6) 呼吸管理 4) 高次脳機能障害への援助 (1) 失語症 (2) 半側空間無視 5) 障害の克服への看護 (1) 家庭・社会生活の役割変更に伴う支援 (2) 障害への心理的葛藤の看護 校内実習〈4H〉 ・口腔、鼻腔内吸引 ・気管内吸引	クモ膜下出血	

単元名	時間数	単元目標	内 容	備 考	実務経験のある 教員による授業
		<p>2 心機能障害のある対象のセルフケア再獲得への看護を理解できる</p> <p>3 セクシュアリティに関わるセルフケア再獲得への看護を理解できる</p> <p>4 職業生活に関わるセルフケア再獲得への看護を理解できる</p>	<p>1 心機能障害のある対象のセルフケア支援</p> <p>1) 心機能障害のアセスメント</p> <p>(1) 症状 (血圧変動、呼吸困難、胸痛、動悸、浮腫、チアノーゼ、ショック)</p> <p>(2) 冠危険因子</p> <p>2) 日常生活への影響とセルフケア</p> <p>(1) 心臓リハビリテーション</p> <p>(2) 日常生活の注意点</p> <p>2 ペースメーカを装着した対象のセルフケア支援</p> <p>1) 機能障害のアセスメント</p> <p>(1) 刺激伝道系異常</p> <p>(2) アダムス・ストークス症候群</p> <p>2) 機能障害による日常生活動作のアセスメント</p> <p>3) 合併症・二次障害予防</p> <p>(1) ペースメーカ不全とその対応</p> <p>(2) 自己検脈 (3) 禁忌行為</p> <p>1 乳房切除術を受けた対象のセルフケア支援</p> <p>1) ボディイメージの変容への援助</p> <p>(1) 精神的支援 (2) 補正下着</p> <p>(3) 乳房再建法</p> <p>2) リンパ浮腫の予防と対応</p> <p>3) セクシュアリティに関わる支援</p> <p>1 脊髄損傷回復期にある対象の看護</p> <p>1) 機能障害による日常生活動作のアセスメント</p> <p>2) 合併症・二次障害予防に向けた日常生活援助</p> <p>(1) 褥瘡 (2) 関節拘縮</p> <p>(3) 体温調節障害 (4) 排泄管理</p> <p>3) 職業生活に関わる支援</p> <p>4) セクシュアリティに関わる支援</p> <p>5) 退院に向けての調整</p>		看護師
まとめ ・試験	2				

科目 緩和ケアを必要とする人の看護 1単位 (30時間)

科目目標：緩和ケアを必要とする患者とその家族を理解し、苦痛の緩和や QOL 維持に向けての看護について学ぶ

単元名	時間数	単元目標	内 容	備 考	実務経験のある 教員による授業
緩和ケア 概論	6	<p>1 緩和ケアの基本的考え方が理解できる</p> <p>2 緩和ケアにおける倫理的課題について理解できる</p>	<p>1 緩和ケアとは</p> <p>2 日本における緩和ケアの現状</p> <p>1) 緩和ケアの対象者</p> <p>2) 提供する場とチームアプローチ</p> <p>3) がん対策と緩和ケア</p> <p>4) 展望と課題</p> <p>1 人の生命、死と医療</p> <p>1) 死の概念</p> <p>2) 死をとりまく今日の状況</p> <p>3) 死生観</p> <p>4) 生命倫理</p> <p>2 緩和ケアにおける倫理的課題</p> <p>1) 患者の QOL と看護者の役割</p> <p>2) インフォームドコンセント</p> <p>3) 意思決定支援</p> <p>4) 安楽死・尊厳死、鎮静 (sedation)</p>	非がん性疾患	専任教員
緩和ケア の実際	8	1 緩和ケアが必要な人の援助の実際について理解できる	<p>1 全人的苦痛への介入</p> <p>1) 全人的苦痛：total pain</p> <p>2) 身体的ケア</p> <p>(1) 症状マネジメント</p> <p>(2) 身体症状のマネジメントとケア</p> <p>①がん性疼痛 ②呼吸困難</p> <p>③下肢浮腫 ④排便障害</p> <p>⑤食欲不振 ⑥倦怠感</p> <p>3) 精神的ケア</p> <p>(1) 死の受容過程</p> <p>(2) 精神症状のケア</p> <p>①不安 ②抑うつ</p> <p>③せん妄 ④不眠</p> <p>4) 社会的ケア</p> <p>5) スピリチュアルケア</p> <p>2 緩和ケアにおけるコミュニケーション</p>		看護師 専任教員

単元名	時間数	単元目標	内 容	備 考	実務経験のある 教員による授業
がん看護	6②	2 苦痛緩和のための基本的援助が習得できる	1 その人らしさを支える日常生活の援助 1) 食事 2) 排泄 3) 睡眠 4) 清潔 5) 環境 2 代替・補完療法 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">校内実習 (2H) ・対象に合わせたリラクゼーションと温電法</div>	白血病 肺がん	
	4	がん患者と家族の看護が理解できる	1 がんという病気をもつ意味 1) がん患者の心理・社会的特徴 2 がん患者の治療と看護 1) 化学療法 2) 放射線療法 3) 集学的治療 3 がん患者の社会参加への支援 1) 就労条件・環境の調整 2) 社会参加を促す要素と阻害要因 (外来化学療法)		
人生の終末期にある人と家族	4	1 終末期にある人と家族への看護が理解できる	1 終末期にある人と家族の特徴 2 エンド・オブ・ライフ・ケア (end of life care) 1) 苦痛緩和と意思決定支援 2) 予期的悲嘆に対するアセスメントとケア 3) アドバンス・ケア・プランニング 4) 家族ケア		
		2 死にゆく人と周囲の人々への看護が理解できる	1 死にゆく人と家族のもつ苦痛とケア 2 死の看取り 1) 死の三徴候 2) 死後の経時的変化 3) 死後の処置 4) 死者への敬意と葬送儀礼 3 遺族 (家族) ケア 1) 悲嘆・予期悲嘆 2) グリーフケア 4 医療従事者のこころのケア		
まとめ ・試験	2				

科目 成人の看護過程 1単位 (30時間)

科目目標：成人期の対象の特徴を踏まえた看護過程の展開について理解する

単元名	時間数	単元目標	内容	備考	実務経験のある 教員による授業
セルフマネジメントが必要な人の看護	14	セルフマネジメントが必要な人の看護過程の展開ができる	1 セルフマネジメントが必要な人の看護過程の実際 1) 成人期にある対象の把握 (1) 病態の特徴 (2) 生活習慣、社会生活 (3) 病気に関連した過去の体験 (4) 学習に必要な能力、サポート状況 (5) 家族の状況、キーパーソン 2) 情報整理・アセスメント (1) ヘルスプロモーション ・生活習慣に関連する日常生活の状況 (2) 健康信念・価値観・病気に対する認識 (3) 疾患による自己知覚、自己概念への影響 (4) ストレス・コーピング 3) 看護問題の明確化 4) 成果 5) 看護計画 (1) 生活の自己管理と継続への援助 (2) 二次的障害予防を考慮した援助 (3) 自己効力感を高める援助 6) 結果、評価と修正	慢性疾患患者	
周手術期にある人の看護	14④	周手術期にある人の看護過程の展開ができる	1 周手術期にある人の看護過程の実際 1) 対象の把握 (1) 病態の特徴 (2) 手術療法に伴う必要な知識 2) 情報整理・アセスメント (1) 全身状態の査定 (2) 術後の生体侵襲および合併症の予測 ・麻酔侵襲と手術侵襲 (3) 合併症予防と早期離床の必要性 (4) 精神的・身体的苦痛の予測 3) 全体像の把握および看護問題の明確化 2 術前・後の看護 1) 術前訓練、前処置 2) 術後の観察 3) 早期離床への援助	手術を受ける患者	
まとめ ・試験	2		校内実習〈4H〉 ・術後の観察とアセスメント ・早期離床への援助 ・輸液ルート、ドレーンの取り扱い ・輸液ルートのある患者の寝衣交換(見学)		

